

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第二小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒206-0822
東京都稲城市坂浜590
E-mail inagi2e@educet.plala.or.jp
Website https://www.fureai-cloud.jp/inagi2e
幼児児童生徒数 男子 50 名 女子 46 名 合計 96 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は「知ろう、考えよう、行動しよう坂浜」を活動テーマに、地域の自然や人、社会や歴史とのつながりを体験し、知ることを通して、地域の現状や課題点に気付き、地域の未来の姿を考えながら、時間と人と空間のつながりのなかに価値を見出し、地域のためにとるべき行動を考え、実行しようとする力を養うことを目標とした。

具体的には、「地域のよさを調べる学習」「地域の産業を体験する学習」「地域の課題・未来を考える学習」を行った。

① 地域のよさを調べる学習

低学年では「坂浜キラリ！探検隊」で町の様子や自然、文化財など、「地域のよさ」を調べた。4年生は上谷戸親水公園について学び、地域の人々が自然を残そうと努力した思いについて学んだ。5年生は、「二小田んぼ」の生き物や植物について観察を行った。田んぼのおかげで多種多様な生き物が生息できることを実感でき、「NHK 放送体験クラブ」で、二小田んぼのよさを紹介するニュース番組を制作した。

② 地域の産業を体験する活動

全校で取り組む稲作活動は40年近く続いている。坂浜では農家も多く、自然と共生しながら地域の人々は生きている。稲作活動が始まった頃の在校生が、今では指導者となり支えてくれている。塩水選、苗床作り、粃ふり、苗取り、田植え、網かけ、稲刈り、脱穀に、子ども・教師・保護者・地域の人々で協力して取り組み、最後は、収穫祭で収穫を祝った。

3年生では、麦を収穫してのうどんを作りと、稲城の名産高尾ぶどうについての学習にも取り組み、地域の産業について学んだ。

③ 地域の課題・未来を考える活動

5年間で地域のよさや特徴を学んできた6年生が、地域の課題について考え、坂浜の未来を考える学習に取り組んだ。また、東京農工大学との連携授業により、「水の大切さ」「木の有用性」「森林のはたらき」「野生生物」「土地利用」「森林計画」について学んだ。森林に囲まれ、動植物も豊かな坂浜。その意義を再確認し、現在進んでいる開発との関係性について考えた。動物の保護、地域を活性化させる方法、維持する費用など、多様な視点から課題について考え、未来をそれぞれ描いていった。その成果を、「坂浜の未来を考える会」主催の「手をつなごう みんなの坂浜」で発表するとともに、地域の方々と地域の未来について協議した。



① の写真（二小田んぼ調査隊）



② の写真（全校 稲作体験）



③ の写真（坂浜プロジェクト 課題と未来を考える）

グループ	A
木のコンセプト	木材生産の促進と自然の残存の確保
ビシター数 (人)	4460
指標生物数	
ふくろ (羽)	6
森ねずみ (匹)	340
カラマツ (本)	7500
収支	
1年目 (本)	66097
2年目以降	56500

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(地域行事への参加)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

・毎年、年度始めに作成する「全体指導計画・年間指導計画」に、「ESD 全体計画」「各学年の指導計画」を掲載し、全教員が学校の教育活動におけるESDの位置づけを確認している。指導内容・方法は前年度の担当者から実施單元ごとに引き継ぎ、実践をしつつ改善をしている。年度末には、本年度の実践をもとに、「ESD 全体計画」「各学年の指導計画」についてふりかえり、修正・改善を行い、次年度計画に盛り込んでいる。

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、

どのような取組を行っているか。(200字程度)

・本校は地域の協力を得ながら地域について学ぶ教育活動が充実・継続するために、稲城市の施策である学校支援コンシェルジュを活用し、地域の協力者と密に連絡を取っている。また、校務分掌に ESD 担当を位置づけ、指導計画の作成・修正の中心を担う。稲作活動は全校で学年ごとに取り組む作業を分担し、各担当が前年度の活動の引き継ぐ。ESD 担当は、「稲作のしおり」を作成し、教員、地域の協力者に配布することで、組織的に取り組めるようにしている。児童も「稲作ファイル」を6年間継続し、学習成果のポートフォリオとしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

・内部は学校の「自己評価シート」内に「全校での稲作活動の推進」「本物との出会いや体験活動の推進」「地域行事の教材化の推進」の項目があり、学期ごとに目標への到達度を評価している。また、年度末には、学校評価のための会議があり、その場で課題を出し合い、改善方法について検討している。外部は、保護者アンケートの項目に、「学校は地域の人やもの、歴史などに関わる活動の場を設定し、地域への理解を深める努力をしている」を設け、評価していただき、高評価であった。また、年3回の学校運営連絡協議会において、ESD に関する教育活動について丁寧に説明し、評価していただいている。「地域とのつながりを大切にした教育活動が展開されている。今後も継続してほしい。」という評価をいただいた。

・成果としては、地域に関する学習が充実し、地域の協力を得ながら改善しつつ継続的に取り組んでいる点が挙げられ、課題としては、発達段階に適した地域教材の配置が挙げられ、学年を跨いでの単元の変更などを行った。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

・保護者には学習の成果をさまざまな場面で学校ホームページ・学校便り・各学年便り等で発信している。また、2年生は公開授業で地域のよさが描かれている地図を紹介し、3年生は学習発表会で劇で表現した。地域に向けては、4年生は上谷戸親水公園の収穫祭に参加し、パンフレットを配布し、6年生は地域の未来について考えたことを「手をつなごう みんなの坂浜」という地域行事の中で発表した。また、稲城市の ESD 活動報告会で各学年の主な取り組みを紹介し、城山体験学習館に取り組みをまとめたポスターを掲示した。地域へ発信することにより、地域を大切にしたい学校づくりを推進していることを周知できた。地域の方々の温かい協力が支えられて、充実した活動が展開されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

- ・地域のゲストティーチャー、ボランティアとの協力
- ・JA 東京みなみ
- ・東京農工大学
- ・上谷戸体験学習館

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

稲城市内の小中学校は、いずれもユネスコスクールに登録しており、年6回行われているESD推進研修会の中で、実践の交流をすることができている。
本年度は、学校の公開日に横浜市立南本宿小学校からESD担当の教諭が取り組みを見学しに来られた。全校での稲作活動に取り組む方針のようで、情報提供などをし、今後交流をはかっている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

子ども、保護者、教員すべてが「地域とともに作る学校」という特色を本校がもっていることを実感できている。地域の人々が、学校の教育活動に積極的に協力することを継続し続けてくれている。子どもたちもそうした地域の先輩の姿から、自分も地域の将来を大切にしていきたいという願いをもつことができている。教員は学びの中で地域の人々に触れることで、地域の願いを受け取り、日々の学校経営や授業づくりに反映させている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

【全校での稲作活動】

塩水選・もみふり・苗取り(低学年)田植え(4,5年生)・稲刈り(6年生)・脱穀(3年生)を分担し、最後に全校で収穫祭を行う。

【各学年の取り組み】

低学年は「二小探検隊」「坂浜探検隊」で身近な生活の中から「地域のよさ」を調べる活動に取り組む。

3年生は「高尾ぶどうのひみつをさぐろう」「塞の神を調べよう」で地域の特産物の生産や伝統行事の体験活動に取り組む。

4年生は「こんなにすごいぞ上谷戸親水公園」で開発と自然との共生を両立させた地域の人々の思いを学ぶ。

5年生は「田んぼ調査隊」で、田んぼに生息する生き物調査をし、地域に豊かな自然が多く残されていることを学ぶ。

6年生の「坂浜里山プロジェクト」では地域の特徴と課題をつかみ、未来の地域について考える学習に取り組む。